

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- 第1学年、第2学年の生活科の学習において、学校担当獣医師の御指導の下、実際にウサギに触れる体験学習を行いました。
- 学校担当獣医師が、子ネコやウズラの雛といった動物も授業の中で紹介してくださり、色々な動物に触れる機会が広がりました。
- 実際に、動物に触れる体験学習を通し、動物に優しく接する態度、命を大切にする気持ちが養われました。



うさぎに触れる体験学習

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 初めはなかなかウサギに手を差し出せなかった児童も、学校担当獣医師が近くにいることで、安心して触れることができました。
- ウサギにストレスを与えない接し方について、専門的に分かりやすく御指導いただきました。
- 授業の内容を保護者に伝え、動物アレルギーの有無を確認するとともに、動物アレルギーのある児童は、遠くから動物を見たり、映像資料を使って指導したりと、授業の参加方法を考えました。

【児童の反応】

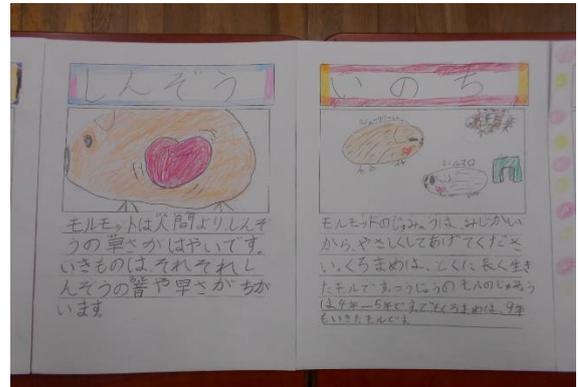
- ウサギとの接し方について、学校担当獣医師指導を受けた児童は、ウサギを驚かさないうさぎの気持ちを考えて接していました。
- 実際に、ウサギや子ネコ、ウズラの雛に触れ、「ふわふわして温かった。」「柔らかかった。」等、生きているということや、命の大切さについて理解を深めました。
- 動物を触ったら、必ず、手を洗うように心がけるようになりました。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

- モルモットの関わり方について、学校担当獣医師が児童とモルモットの触れ合い場면을参観後、モルモットが安心できる抱き方やストレスを少なくする方法を話していただきました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、人間、ウサギ、モルモットの心臓の音を聴くことを実施しました。



モルモットのお世話ガイドブックの中から

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師と複数回の打合せを行い、当日の流れや、学校で準備できるもの、授業会場(雨天時も含む。)の確認をしました。
- モルモット飼育の引継ぎの際は、1年生の保護者へ事前にアンケートを取り、アレルギーの有無について確認しました。

【児童の反応】

- モルモットの正しい抱き方を知ることで、怖がらずに自信をもってモルモットを抱ける児童が増えました。
- 触れ合いの際のブラッシング、鳴き声の聞き分けなど、実践を通してモルモットがリラックスしている様子を把握できるようになりました。
- 心臓の音を聴き比べて小動物の命の大切さを多くの児童が実感することができました。
- 自信をもって、週1回のケージの大掃除や毎日の簡単清掃ができるようになりました。
- 朝の簡単清掃を自主的に行う児童が増え、習慣化されてきました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

<1年生>

- ウサギの特徴、体のつくり、触るときの注意点、えさ、心臓の音などについて学習しました。写真などで説明を受け、実際にどの部分を持って触ればよいか、触るときの姿勢など具体的に指導を受け、実践しました。
- ウサギを観察するときのポイントの指導を受け、学習したことを、子供が絵と文で表現しました。



学校担当獣医師から指導を受け、動物と触れ合っている児童

<2年生>

- 獣医師の一日について話してもらい、獣医師の仕事を理解するとともに、ペットなどを含めた動物に関する話もしてもらいました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

<1年生>

- どんな授業を予定しているかを、事前に学年便りに載せ、保護者にはアレルギーなどについて確認をしました。授業では、学校担当獣医師に児童の質問に答えていただくなど、現場で働いているから分かる内容を計画し、実施しました。

<2年生>

- 児童が教わったことを家庭で話すようにし、みんなでペットなどの動物を大事にしていこうという気持ちの輪を広げました。

【児童の反応】

<1年生>

- 学校担当獣医師から直接話を聞くことができ、興味関心をもって学習活動に取り組みました。

<2年生>

- 動物にも命があること、それを守っていけるのは人間しかいないことなどに気付きました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

○ 「なかよくなるうね 小さなともだち」という単元で、小動物や昆虫など身近な生き物に関心を持ち、すすんで触れ合うことができるように、学校担当獣医師から、学校で飼育しているウサギのマロンについて教わりました。

まずはウサギを観察し、じっくり見たり触れたりする中で、愛着をもち、もっと知りたいという意欲をもたせるようにしました。



学校担当獣医師から、授業を受ける1年生

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○ 児童の前で、獣医師に実際にウサギの診察をしていただきました。その様子を見て、児童は、何を食べるのか、世話をするのに必要なものは何か、体の特徴についてなど、学校担当獣医師に質問をして教えてもらい、ウサギの世話の仕方を考えることができました。

○ ウサギの飼育について、本や図鑑等で調べることを家庭からの協力を得て行ったところ、どの家庭も協力的で、学校のウサギを親子で観察するなどの活動ができていました。

【児童の反応】

○ 児童の目の前で、学校担当獣医師がウサギの腹を見せたり、実際に心音を聞かせたりすることで、児童は、より興味や親しみをもち、生命を感じるようになっていました。児童は自主的に図鑑等で、えさや世話の仕方を調べたりする姿が見られました。



獣医師が児童に耳の観察をさせている様子



ウサギの腹を見せているところ



授業でウサギの世話について話す学校担当獣医師



多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- 1、2年生の生活科では動物ふれあい教室を実施していただきました。ウサギやモルモットなどの小動物を複数連れてきていただき、抱いたり、心音を聞いたりして触れ合いました。



動物ふれあい教室で子ウサギに触れる

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 動物ふれあい教室では、事前に打合せを行い、体育館の下見などもした上で実施しました。当日は、南多摩獣医師会の複数の獣医師の方々が来校してくださり、グループごとに指導していただきました。保護者も一緒に参加して楽しいひと時を過ごしました。

【児童の反応】

- 児童は最初、「かわいい」「ふわふわ」「温かい」といった直感的な感想を言い合っていました。心臓の音を聴診器で聞かせてもらった後は、真剣な顔つきで、命の大切さやウサギやモルモットも人と同じだと言い始めていました。命の尊さに気付いたのではないだろうかと思われます。